

初代橋橋を架けた医師

福島邦成を偲んで



制作：宮崎「橋の日」実行委員会

曾祖父を偲ぶ

(曾孫 福島順一記)

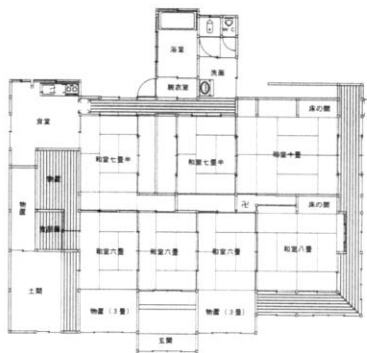
福島邦成は、(1819年)太田村(現中村西1丁目)に生まれ、17才から昌平塾に学び、蘭学、西洋医学、薬学を修め、後に延岡藩の待医を務めた。

帰郷後、明治4年に居宅の近くに宮崎病院(現善栖寺境内)を設立した。近くに流れる大淀川の渡し舟が増水の度に運休するのを眺めて、江戸を知る邦成は、著しく不便を感じていたに違いない。対岸の患者は、来院できず自らは住診できない等を含めて、商人も困った筈である。明治5年頃から、橋を目錄み再三県に架橋申請を行ったが、許可が下りず、明治13年にようやく許可をえた。

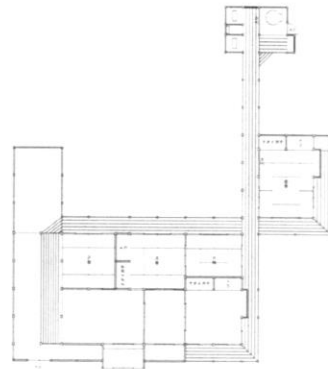
同年2月私財千七百円を投じ、木橋(長さ350m幅3.9m)を完成、4月開通式を挙行了た。邦成は雅号を退庵、橘南、赤洲等を名乗っていたが、その中から一字を取り、橘橋と銘名した。宮崎で最初の賃取橋である。場所は、上野町通りと、善栖寺正門前を結んだ線上で現在の橋より上流にあった。

没後は、医師としてよりも、橘橋の創設者としての方が知られるようになり、観光バスで紹介され、又、北詰の黒御影石の橋碑に刻名され、郷土史にも語られている。

この度諸事情により解体となりますが、これまで地域の皆様方からいただいた謝恩に忘るべく拙宅の見学会を実施することとしました。どうぞごゆっくりご覧ください。



平面図(現況) 0 5m



平面図(江戸末期保存図面) 0 1m

(福島家住宅と邦成)

福島家住宅は、現在、宮崎市中村西1丁目に位置している。福島家住宅が建築されたとされる享保2年(1717)当時(藩政期)の中村町は、延岡藩の飛び地であった。福島家に伝わる福島家略系譜(福島家本係新譜叙)によると、24代当主勝寛氏の時に中村町に移り住み、同町で最初の医師であったことが記されている。

福島家は代々医師の家系で、26代当主勝敬氏の頃、宝暦11年(1761)に延岡領主内藤能登守が宮崎巡見中に医師として同伴し、そのお陰で官医(藩医)の格となり、天明4年(1784)に苦勞の功賞として土地等を賜った。

廃藩置県後の福島家は、宮崎県が鹿児島県に併合された明治9年(1876)の翌年に勃発した西南戦争の舞台になった。薩摩の将であった島津啓二郎が宿舎としたのが、この福島家住宅であった。

また、大淀川に最初の本橋の橘橋が明治13年(1880)に建設されたが、この建設費用を出資したのはこの福島家であった。橋は木橋で、長さ約350m、幅員約3.9m、高さ約3.2mだった。この邦成氏の業績は驚嘆すべきことであり、本業の医師としても、天然痘の予防接種の術を広めたことで高く評価されている。

31代当主の邇氏は、宮崎軽便鉄道(現在の日南線[南宮崎-内海間])の建設を發起し、大正2年(西暦1913)の開通に、才賀藤吉氏、水間此農夫氏らとともに尽力された。

現在の当主は33代順一氏であり、幾度かの増築や修理を経て、築約290年建った今でも大切に家を守り続けてこられた。

主屋の平面形式

福島家住宅は武家住宅の流れを組むものであり、接客のための空間と、家族の居住空間とがはっきり2つに分けられている。接客のための空間は、現況図から正門・昇降口

(玄関)から入り、東側に一列に並ぶ6畳・6畳・8畳の座敷の部分である。一方、家族の居住空間は、裏門・西側の土間付きの内玄関から入り、6畳の和室・北側に配置された7畳半・7畳半・10畳の和室の部分である。さらに、その北側に昭和30年代に改装された台所と、改築された浴室・洗面脱衣・トイレが配置されている。この空間を2つに分離していることを証す史料として、明治36(西暦1903)年9月23日の日付で改装を行うための現況図が当家に残されている。これ史料によると、接客のための和室には全て長押(なげし)が、また奥座敷は違い棚、床の間、書院窓が記されている。この記述は、

我が国の伝統的な和風建築の接客を重んじる書院造りの造りであり、現況の座敷の空間構成とほぼ一致していることから判断できる。

建物の見所



(瓦)

屋根は本瓦葺(一部棧瓦に改修)の切妻屋根で、四方に下屋

(下屋根)を回している。

軒の丸瓦や据鬼瓦には、九曜の紋や「福」の文字が施してあり、関西方面から取り寄せたものと考えられています。



(住宅)

福島家住宅は武家住宅の流れを組むものであり、接客のための空間と、家族の居住空間とがはっきり2つに分けられている。



(欄間)

土間や、接客の部屋として利用されている座敷には、一枚板をくり貫いた艶やかな色をした欄間が残されており、長期に渡って行き届いた手入れが行われたことが伺える。また、座敷の違い棚、床柱、落とし掛け、床框にはケヤキなどの高級木材が数多く使用されていることから、改めて福島家の財力や家柄の高さを伺い知ることができる。



(福沢諭吉の額)

テレビ東京「お宝鑑定団」に出展し、100万円のお墨付きをもらった逸品(キズがなければ400万円)。福沢諭吉の一番勢いのよかった頃の書であること、福島邦成へ送ったものであることなどが鑑定員から報告された。

(福島邸について)

宮崎県立宮崎工業高等学校 建築科 主幹教諭 稲用光治

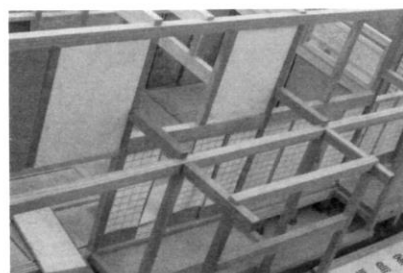
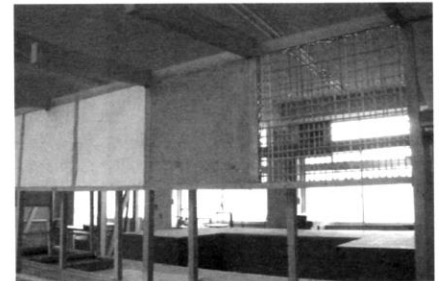
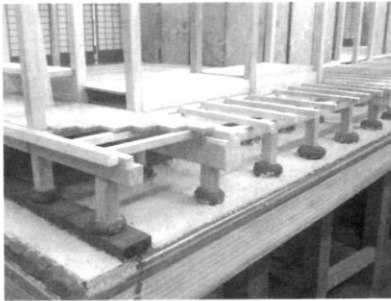
本校の教育課程の中に課題研究が配置されており、その課題研究の調査研究部門で地域に残る歴史的建造物を探していたところ、宮崎県教育委員会発行の「宮崎県の近代和風建築（平成18年3月）」に福島家住宅が掲載されていた。平成19年4月に、現在の当主福島順一氏に調査の趣旨を説明し、承諾を得ることができた。

調査内容は、福島家の敷地内にある主屋の実測調査を主として、福島家に関する歴史的な史料調査も行った。実測調査は、現状を把握するために配置、平面、立面、屋根形式等を行い、図面作成上の補助として写真撮影も行った。また、建物の復元図を作成する必要性から、改造及び痕跡の調査を行う一方で、古写真の収集及び現当主の福島順一氏からの聞き取り調査も行った。

福島家に関する歴史的な史料は、古図面（平面図）2枚、材料書1冊、古写真4枚を発見することができた。

(調査の経緯)

平成19年度	主屋の平面・立面実測調査、当家所蔵の明治・江戸末期の図面の復元図作成
平成20年度	昭和15年当時の復元平面図、立面復元図、断面詳細の実測
平成21年度	江戸末期頃の復元模型製作
平成22年度	江戸末期頃の復元模型製作（離れを含む）
平成23年度	福島邸付属屋の実測調査（平面図・立面図）



(調査を終えて)

本校において、授業中に校外に出て調査を行うのは初めての試みでした。期待と不安の中での調査だったと思います。それだけに、皆さんが調査を成し遂げて、その成果について発表できたことは、大きな意味があります。それは、この調査研究を通して宮崎工業高校の建築科のアピールができたことや、地域に残る歴史的な建築遺産を掘り起こせたことが挙げられます。それと、調査を成し遂げた達成感により、皆さんの自信にも繋がったのではないのでしょうか。本当にご苦労さまでした。

(研修を終えて)

植田由香梨 (平面図作成)

この課題研究では、毎日私たちが勉強している建築の知識や技術を活用することができました。福島邸は、建物自体を調査するのも、福島家の歴史を調査するのもとても楽しかったです。

緒方 涼 (平面図作成)

今まで課題研究をしてきて、実際に建物の事について詳しく調査をすることが出来て、良かったと思います。これから進学をして、もっと詳しく建物のことについて勉強をしていくと思うので、今回行った調査をいかしながら頑張っていきたいと思います。

小八重啓太 (配置図作成)

今回調査をしてみて学んだことがあった。まず初めて取り組んだ平板測量である。実習でもやったことがなかったため、最初のうちは、据え付けだけで時間の大半が使われた。そして、ポールを持つ係、メジャーの係、図面を書く係と、みんなの協力も必要だった。(中略)現場で働く人達の大変さが分かった。最後に、福島邸についてだが、外見はとても古く傷んでいた。しかし、土台はしっかりしていて、昔の建築に関わった人達の技術も現在の技術に引けをとらないものを持っていたのだとわかった。

鈴木 健太 (配置図作成)

今回、3年生になって初めて課題研究というものに取り組み、調査研究を自分で選択して自分なりの研究を進めてきました。でも小八重君や稗嶋君がいなかったら、完成させることが出来なかったと思います。発表を成功させて、気持ちよく終わろうと思います。

新名 健二 (立面図作成)

私は、最初、調査研究は大変だなと思っていました。しかし、スケッチなどをしていくにつれて、とても楽しくなり、CAD操作も楽しくなりました。この課題研究で、いろいろな発見もでき、とても充実した時間を過ごすことができました。とても、将来に役立つ研究でした。

稗嶋 健 (チーフ、配置図作成)

今回、私は福島家住宅の調査研究を行いました。測量では、塀の部分から入り、主屋部分を詳細に調査しました。(中略)主屋では、玄関部分が一番難しく、家の規模も大きかったため、測量に2ヶ月くらいかかりました。この調査研究を通して、私は成長できたと思います。

藤本 丈寛 (立面図作成)

調査研究を終えての感想は、とても充実した時間をおくれたことです。調査で一番難しかったところは、建物のスケッチと寸法を測るところでした。(中略)今回の調査研究では、難しかったことも多かった分、今まで実習で習った事などを活用し、学べることも多くとても充実したものでした。どうもありがとうございました。

築300年 古民家解体へ

江戸中期の宮崎市「福島邸」

26日「さよなら見学会」



解体が決まった福島邸。江戸時代中期以前の建築の特徴である本瓦が屋根には残る。

江戸時代中期の約300年前の建築物と伝えられる宮崎市中村西十目の古民家「福島邸」が7月下旬に解体されることになった。付書院や違ひ棚を備えた書院造りの武家住宅。江戸中期以前の特徴である屋根の本瓦や、一枚板を加工した透かし彫りの欄間など江戸期の雰囲気をのびせる「歴史資産」の解体を惜しむ声が広がっている。



透かし彫り(写真左上)の欄間には福沢諭吉直筆の書が掛かる

福島邸は代々医者の家。初代「福橋」の建設費用の稲用光治教諭による系で、1880年には目を出資した。福島邸を調と、家系図に24代目勝寛が1717(享保2年)現在地に移り住んだとの記載があり、同邸もその時に建ったとみられる。明治期に離れ家が建てられ、大正期には母屋の大規模な改築をしている。稲用教諭は「築300年の民家は県内では聞いたことがなく、江戸、明治、大正と三つの時代の建築様式を持ち合わせているのも特徴」と言う。ただ、建築年や家主、施工大工などを記した棟札が改築工事の際に消失、築年数を証明するものは残っていない。県や市によると、文化財には登録されておらず、家屋の保存や移設は難しいのが現状だ。同市文化財課の担当者は「審議会でも文化財指定が話題に上ったことはあるが、築300年の確証がないことや度重なる増改築が障害となった」と言う。

古民家の保存例には、明治時代に建築された同市佐土原の商家「旧阪本邸」がある。市が景観重要建築物に指定し、管理しながらまちづくりに活用している。宮崎大工学部の出口近士准教授は「福島邸は貴重な歴史資産だが、文化財などに指定されていない。保存には民間の支援に期待するしかない」と指摘する。

解体後の土地は相続税納入のためマンションを建設する。欄間にはアレビの鑑定番組に登場した「福沢諭吉直筆の書」が掛かり、「県内最古のラジオ」など骨董品も並ぶが、家屋解体後は県総合博物館などに一部寄贈する予定という。33代目当主の福島順一さん(81)は「末代に土地だけでも残すための苦渋の決断だったと残念そう。幼いころ近所に住んでいたという宮崎市中満の落合勝子さん(77)は「よく塀のそばで日なたぼっこした。壊されるのは寂しい」と懐かしんだ。26日には有志でつくる宮崎県景観会が「さよなら見学会」(午前10時～午後4時)を開き、福島邸が所蔵する江戸期の硯や明治期の花瓶など古物の販売会もある。(泉修平)

平成23年6月10日 宮崎日日新聞

古建築好きとしては東日本大震災による宮城県の牡鹿半島周辺の被災が気掛かりの一つだ。天然スレート産地。書道の硯と同じ粘土で、古い洋館の屋根等に使う建材に、知る限りでは、県内では日南市駄肥に残る大正時代の洋館「飯田医院」の壁に使用例を見る。半島周辺は国内ではほぼ唯一の天然スレート産地だから、はるばる移送された可能性が高い。残念ながら取り壊しの話が進んでおり、地域住民らが保存活動を続けている。以前だが宮崎市の大庭小園辺を歩いていたら、古めかしい民家に出くわした。よく見ると、屋根が格式のある寺や城にしか使われない本瓦ふきなので驚いた。本瓦は重いのだから梁も頑丈だろう。この夏取り壊し予定の福島邸だ。▼明治時代初期、私財を投じて大庭川に初代「福橋」(木造)をかけた福島邦成ゆかりの民家だ。宮崎工業高専の生徒が07年度から実測調査や復元模様の製作を行っている。築300年に及ぶという。28日には市民有志の団体が、一般向けに「さよなら見学会」を開く▼手作りで建てた昔の建物は、二度と再現できない貴重な文化遺産だ。土地の風土や歴史を映し、人々の交わりが濃かった時代の記憶と結ぶついで、大切なものを思い出す。だが老朽化した近代建築が、県内でも次々と姿を消している▼寂しいが、保存するには維持・管理の多大な負担が所有者にのしかかる。指定文化財の枠に入らない町の遺産をどう残すか。有効に活用する方策を立案し、公的な支援を仰ぐしかないのが現実だ。第三者の懐古趣味も広ければ無駄にならない。

(テレビ放映)

■九州朝日放送 (九州管内)
未来への羅針盤

(九州にかかわりのある著名人の、その土地にまつわる逸話や、九州に住む一般の人々の心温まる物語などを毎回ひとつのエピソードとして取り上げる番組)

2011年6月26日 (日曜日) 正午から15分間
(KBC・NCC・KAB・OAB・KKB)

■MRT宮崎放送 (宮崎県内のみ、一部鹿児島)
わけもんGT (情熱と好奇心を持ち続ける宮崎の人々へ送る情報番組)
2011年6月30日 (木曜日) 午後8時から約1時間



宮崎「橋の日」実行委員会について

1985年（昭和60年）湯浅利彦氏が「8月4日（はし）橋の日」を提唱。

翌1986年、全国に先駆けて、第1回「橋の日」が延岡市大瀬川に架かる安賀多橋で開催。

翌1987年、宮崎「橋の日」実行委員会を発足。毎年8月4日に、宮崎市大淀川に架かる橘橋北詰にて、さまざまなイベントや広報・啓発を行い、「橋の日」運動を展開しています。

1994年（平成6年）日本記念日協会より「橋の日」の認定を受けました。福島順一さんもメンバーの一員として活動に参加されています。

2011年、活動25周年を迎え、8月4日に橘橋にて「橋の日」イベント、8月19日午後1時より宮崎市民活動センターオルブライトホールにて、シンポジウム「橋がつなぐ地域づくり」を開催予定。



福島邸見学会では、福島邦成の資料展示、「福島邦成と橘橋」と題した紙芝居を実施。

宮崎「橋の日」実行委員会の活動は、インターネットで「橋の日」と検索してください。

また、ツイッターやフェイスブックでも活動を紹介しています。

みんなでひろげよう「橋の日」を



宮崎「橋の日」実行委員会

事務局 〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂2574-6

電話 090-9566-4159 (担当 鶴羽)

URL <http://www.hashinohi.jp/>

☆このしおりは当会会員である稲用光治会員の資料・写真をもとに制作しています。